

アンレス®

(ANLES)

登録番号 第10342号

種類名 チウラム水和剤
thiram

殺菌剤分類 M3

性状 類白色水和性粉末 45 μm以下

有効年限 4年

有効成分 チウラム 80.0%

P R T R チウラム(PRTR・1種) 80.0%

毒性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

包装 500g×20袋

■特長

1. 農作物を加害するすずめ、野ネズミ、野ウサギに対し強い忌避効果を発揮します。
2. 樹木に忌避剤として使用する場合、秋から初冬の間1回処理で翌春の融雪時期まで残効があります。
3. 種もみ処理で苗立枯病の予防に効果があります。

■適用病害鳥獣名及使用方法

(2020年11月25日現在)

作物名	適用病害鳥獣名	希釈倍数	使用液量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤およびチウラムを含む農薬の総使用回数	使用方法
稲	スズメ 野ソ(ノネズミ) 苗立枯病	10倍	—	は種前	1回	種もみを浸漬(1~2分)し、風乾後は種する
りんご 桑、あかまつ すぎ、ひのき からまつ	野ウサギ 野ソ(ノネズミ)		30~60	—	5回以内 —	樹幹部に散布 または塗布する

△ 効果・薬害などの注意

1. 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
2. 本剤を使用する場合は、濃度が濃いいため、噴口につまりやすいのでよく攪拌し、散布むらのないように十分散布してください。
3. 種もみに使用する場合は次の注意事項を守ってください。
 - (1) 希釈倍数、浸漬時間を厳守してください。浸漬後2~8時間風乾した後は種してください。
 - (2) 種もみの催芽程度は48時間以内の浸漬催芽としてください。
 - (3) 箱まき、バット播き等では使用しないでください。
 - (4) 粉衣処理は処理量によっては薬害を生じるおそれがあるので行わないでください。
4. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにしてください。
5. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

△ 安全使用上の注意 

6. 取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けてください。
7. 眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
8. 皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
9. 薬液調製時および使用の際は保護メガネ、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔など石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
10. 作業時に着用していた衣服などは他のものとは分けて洗濯してください。
11. かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
12. 本剤で処理した種子は、食料や動物飼料として使用しないでください。
13. 街路、公園等で使用する場合は、使用中および使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に影響を及ぼさないよう注意を払ってください。

水産動植物への影響：水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所に保管してください。

- 火災時は、適切な保護具を着用し水・消火剤などで消火に努めてください。
- 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収してください。
- 移送取扱いは、ていねいに行ってください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。

●アンレスの上手な使い方

希釈液の作り方

- ①まず本剤に少量の水を加え、よく練ってから所定量の水を加え、さらによくかきまぜて作ってください（噴口のつまりを防ぐため）。

稲の種もみに使用する場合

- ①発芽もみには使用せず、乾燥もみに使用してください。
- ②他の病害の種子消毒を行う場合は本剤の処理前に行ってください。ただし、チウラムを含む製剤との重複処理はさけてください。

樹木類に使用する場合

- ③害を受けやすい樹幹部全体に刷毛などで塗布してください。
- ④散布の場合は噴口がつまるおそれがあるのでよくかきまぜ、穴が大きめの噴口を使用し、散布むらのないように十分に散布してください。
- ⑤本剤は秋から初冬にかけて使用しますが、処理した薬液が凍結すると固着性が悪くなるので、凍結のおそれがない時に使用してください。また降雪地帯では根雪になる前に処理してください。
- ⑥処理後 24 時間は降雨がないことを見越して使用してください。